

Junior Doctors Network Meeting

Monday October 14, 2013 Fortaleza, Brazil

Alcaborra Room, Vila Galé Cumbuco

Agenda & Report

1. Welcome and introductions

Chairから自己紹介や歓迎の挨拶がありました。特に日本は遠方からの参加ですので、非常に歓迎されました。8時に集合でしたが、8時に着いていたのはカナダ、スペイン、ドイツ、ブラジル、日本のみ。徐々に各国集まり始めます。

2. Confirmation of agenda, apologies, accept last minutes (Bali Apr,2013)

インドネシアバリで行われた前回のJDN meetingの議事録を承認。今回のAgendaを特に異議なく承認しました。

3. JDN update

Overview

Management Report

まずはChairから世界医師会（WMA）とは何なのかという話から始まりました。WMAのVision, Missionの説明があり、WMAが政治的な独立した組織であることも強調されていました。特に医療、倫理、教育、人権に関連する健康問題に関して取り組んでいるとの説明がありました。102カ国のメンバーが参加しているようです。また、WMAの組織構造とPolicy statementの承認プロセスについても説明がありました。

WMA構造概観

Executive Committee (president, treasurer, council char)

↓

SMAC, MEC, FPL

↓

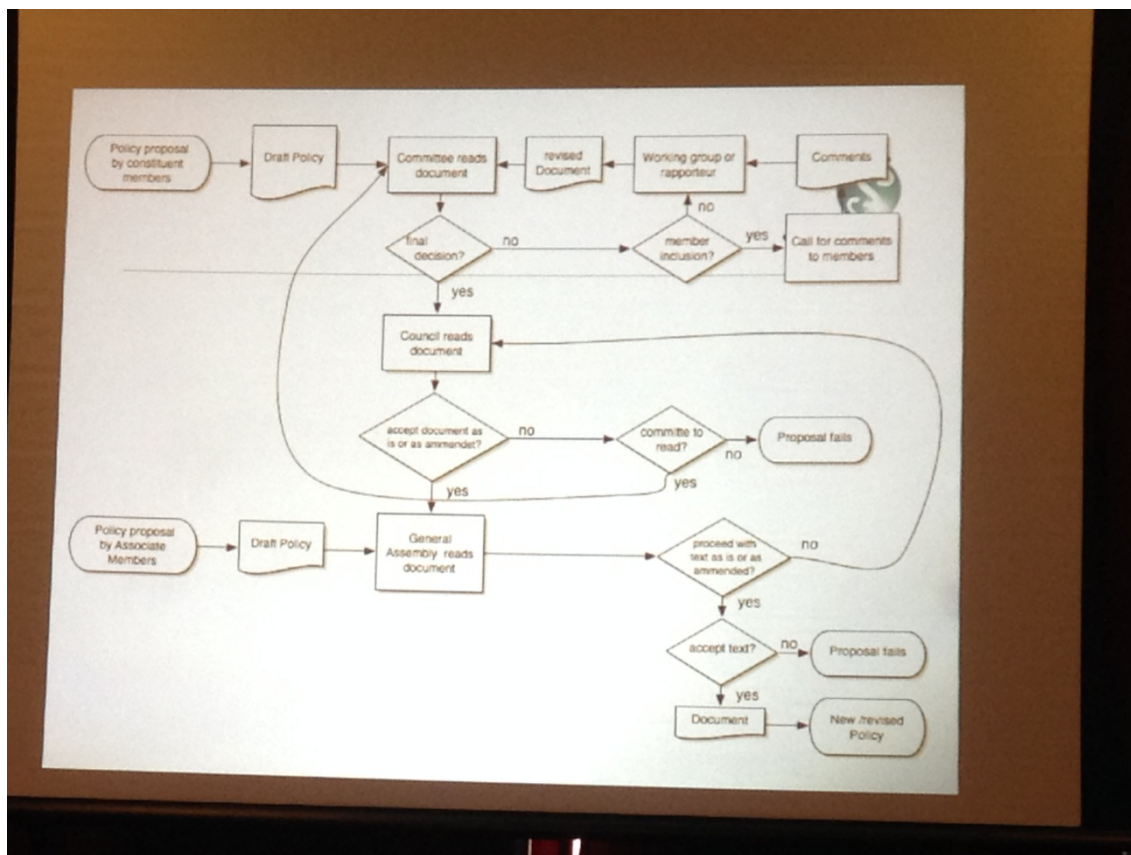
Council

↓

General Assembly←Associate members, JDN

<http://www.wma.net/en/60about/30structure/index.html>

Policy statementの承認プロセス



次にJDNのGoalについて確認

The goal of the JDN is to provide a forum for experience-sharing, policy discussion, project and resource development on issues of interest to junior doctors, including (but not limited to) global health, postgraduate training, safe working conditions, and physician migration.

若手医師の定義については議論中で概ね10年としているようですが、国によって差異が多い部分があるようです。JDN加盟国についても正式に何を加盟としてるのか定義がないようでした。また、この1年間の活動の紹介がありました。活動といっても主にはMeetingをどこで行ったかという紹介で、IFMSA March Meeting 2012 USAから始まり、Pre WHO&WMA relationship Meeting, WHO January, AMA meeting 2013, D.O.H. final Meeting, CMAAO congress in India, WHO Europe meeting, JDN in the EMR migrants, JDN UNESCOなどに参加しているようです。

また、JDNのメンバーでSocial media and medicine: legal and ethical implicationsの論文を出したことや、韓国や台湾からレジデントの労働環境（特に労働時間が多いことによるMental healthやSocial supportの問題）の改善について強く要望があり、Physician Well

beingについてのPolicy statementの作成を行っていること、ニュースレターの作成、フェイスブックページの紹介がありました。活動と言えばPhysician Well-beingのStatementを作っていることと、世界会議の出席、若手医師の交流が主ということでしょう。

4. Conference 1:

“WMA - How it works and the role of JDN in its structure”

Dr. Otmar KLOIBER – General-Secretary (Germany)

上記DrからのJDNの役割や期待するものについてのプレゼンがありました。その中ではWMAとして如何にJDNと親密に仕事ができるかということを考えているというがまず強調されていました。それというのも、WMAの理事会メンバーはかなり高齢であり、Junior doctorの問題とはかなりかけ離れているという危機感があるようです。Policy makingも様々な世代の意見を検討して共同で行いたいとのことでした。そのためにWMAとしてはJDNが参加しやすいように会員制度を工夫し、Associate memberを作ったり、IFMSA Alumniは5年間のAssociate membershipをもたせたりしているようです。また、Junior doctorがWMA GAに参加するためには直接参加するか、もしくは各国の一員として参加するかを選択肢があり、どちらでも参加出来るようにしているとのことでした。

またJDNがIFMSAのように独立した組織であることの重要性を強調していました。WMAはJDNがしたいことを応援する準備があるようですが、もともとWMAが主導して立ち上げたJDNであるためなかなか独立性については疑問が残るかもしれません。(しかし、JDNを時間のない若手医師だけで立ち上げるのもまた困難です) 特にJDNが抱えている問題は世界の問題であるという認識があり、WMAは問題点を共有して取り組みたいとのことでした。また、若手医師にはJDNを通して各国の問題や地域の問題を学び、Medical Associationの仕組みを学んで欲しいとのことでした。そして、JDNと理事や委員会との距離を縮めたいと考えているようでした。併せて、JDNを通して他のNGO活動などと違った経験 (Policy makingや若手医師同士の交流など) が出来るとのこともありました。

JDNにStructureを作った方が良いのではないかという質問がありました。これに関しては特にDr.Otmarからははっきりとした答えはありませんでしたが、そこで強調していたのはJDNは“Easy Play Ground”であるべきで、そのために必要であると判断したら次の世代までに作るべきとの内容でした。また、政治的な独立した活動、民主制、継続性などを重要視するように話しておりました。

5. Conference 2: “The importance of the Junior Doctor in the National Medical Association”

José Bonamigo – Director of Brazilian Medical Association – (Brazil)

Agendaがスキップされました。

6 Review of WMA policies/submissions

今回総会に提出されるすべてのPolicy statementについてReviewしてコメントを募集されました。本来的にはすべてのStatementに予め目を通してくるべきなのかもしれませんが、Statementは20~30枚あり現実的には不可能です。参加者はその場で読んでいるようでした。(DropboxにすべてのPolicy statementがあります)

特に議論が盛り上がったのは、Human-sexualityの問題でWMAとしてHomosexualは病気ではなく自然の範疇であると言い切るPolicyについてでした。各国の状況を話しており一部の国では非合法で捕まるところもまだあるようでした。宗教の問題も絡んできます。この他のPolicyについても日本の現状についても適宜発言を求められました。

また、JDNが提出しているPhysician WellbeingのStatementに関してもInputを募集されました。個人的にはMental HealthやSocial supportの重要性について偏っており、Annual checkなど基本的な予防が含まれていないことが気になりました。

7. Update on current topics under discussion and projects by the IFMSA

Josko Mise- President – International Federation of Medical Students' Associations

IFMSA presidentの参加があり、IFMSAの紹介がありました。<http://www.ifmsa.org/>
JDNにはIFMSA Alumniが多いのですが、IFMSA Alumniの絶対数からするとJDNに参加している人数はかなり少ないようです。より緊密な連携をとっていく必要があるようです。IFMSA Presidentとも非公式に話しましたが、やはりIFMSA Alumniと趣旨が似ていることもやや問題で、IFMSAとしても時間のある学生としてよりサポートすることは問題ないと思っているようです。しかし、一番の問題はJDNの組織がはっきりと構造や規則なども決まっていないため、協力するにしてもどうして良いのか分からない点にあると思いました。

8. JDN Projects old and new

- Well being policy white paper

Physician Well beingのPolicy statementを作成しながら、各国の状況を把握するためのアンケート用紙を作成中のようです。

- Global health and ethical implications

- Global Survey Postgraduate Medical Education

- Workforce Policy Paper

- Conferences and Meetings to attend 2014

上記挙がっていますが、具体的な活動内容はWellbeing以外にありませんでした。

9. Introduction to represented Junior doctor countries - including experience sharing (8 minutes each)

Please prepare a Power Point Presentation of approximately 5 minutes, so there will be time for questions.

各国からの現状報告と問題点共有を行いました。Presentationがあった国のPPTはDropboxにUpされています。

- ・カナダ <http://www.cair.ca/en/>

8000人のレジデントを代表する組織で、Medical Education, Policy/Advocacy、Wellbeingを扱っているようです。多くのプロジェクトを行っており、Annual survey of Canadian resident（アンケート形式）は来月に2013年の結果が出るようです。その中には勤務時間や疲れ、メンターシップ、Career counseling, employment opportunitiesなど多様な項目があるようです。その他、下記のような多くの活動をしており詳細はPPTとWeb pageを御覧下さい。

- ・ annual survey of Canadian resident
- ・ CAIR standing committee on health human resources
- ・ Transition into practice service (matchmaking service)
- ・ Duty hours taskforce
- ・ Handover
- ・ Mentorship
- ・ Program/specialty transfers
- ・ Accreditation workshops
- ・ Resident outreach: web, newsletters, social media

ジャマイカ

特に印象に残ったのは医学部を卒業してもResidencyの機会が必ずしも与えられないという問題があるようです。Intern positionが少なく、改善しようと頑張っているとのことでした。詳細はdropboxのppt参照。

韓国

もともと2つのResidentを代表する組織があったようです。一つは10年ほど前からInternとResidentのためのKIRAという組織があり、もう一つは公衆衛生領域のResidentの組織があります。そのどちらもJDNに参加しています。KIRAの組織概要はdropboxのpptを参照頂きたいのですが、特に彼らが力を入れているのはWorking timeについてです。JDNが作成中のPolicy statementにもかなり影響を及ぼしているようです。

トルコ

2010年設立で比較的新しい組織です。

若手医師に関連する問題のために働き、国に若手医師の考えを伝えたり、国際進出をおこなったりすることを目指しているようです。Politics, QOL, Education にかんする Working group を運営しているとのこと、毎年テーマがあり 2013 年は postgraduate education、2014 年は young doctors' roles in quality healthcare だそうです。

ドイツ

口頭のプレゼンでしたが、現在の問題点としては国が Health care system change を行っていることや、他の Europa 各国からの医師の Language problems、Generation gaps などが主な問題となっており、特に力を入れているのは Women's health で子育て期間のサポート体制を工夫しているようです。

ブラジル

週60時間の労働制限があるそうで、特に強調していたのはブラジルの医師の職場環境の悪さについて訴えておりました。衛生面も心配ですし、医師の数は十分いるようですが、待遇が悪いとのことでした。僻地はキューバからの医師を配置したりと質にも問題があるとのことでした。政府はあまりお金を出したがないためプロパガンダも行っているとのことでした。

フランス

ISNIという組織があります。教育に力を入れているようで、Medical schoolへの入学方法の改善や卒後教育の方法改善などを行っているようでした。

10. JDN operations discussion

Planning/goals:

Capacity building

Funding/meeting planning

Additional Meetings

IFMSA

NMAs relationship

Next meeting

この時間は非常に議論が白熱しました。

まず、JDNは上記に挙がっているような多くの問題を抱えています。特に未だStructureやStrategic planningはなく、規則もありません。それに関して、まず優先してStructure

と **Strategic Planning** に関して **Working group** のような形で立ち上げて作成を始めることとなりました。中には固定された昔ながらの **Structure** を作ることに反対する声や、**WMA** の規則との兼ね合いを心配する声、**Structure** を作ることに費やされる労力と時間を危惧する声が聞かれましたが、3年目にしてやっと始めることとなりました。東京でのメインピックとなるでしょう。

また、同時に **JDN** の **Fundraising** についても大きな問題として挙げられており、詳細は不明ですが **JDN** の自由になるお金は150ユーロ？とかなり少なかったり、**WMA** 総会の **JDN Meeting** でさえ数百ユーロ程度しか出ないようでした。

また、次回の **JDN Meeting** は **Thursday, 24th - Saturday, 26th of April 2014** 東京の理事会に併せて行う予定であることから会場の用意や準備の手伝いを頼まれました。**JMA** と **JDN** との調整を我々で行う必要があります。また、**JDN Meeting** の日程に関しては通常は本会議前の23日（水）に行うのが通例のようですが、日本からの参加者の都合を考慮して27日（日）でも可能である旨承諾頂きました。今後、4月に向けて **Organizing Committee** を立ち上げて **JMA** と **JDN** と密にコンタクトをとっていく必要があります。また、早めに **Budget** を算出して **JDN** が払えるだけ払ってもらい、あとは **JDN** が **Fundraising** するのも期待しながら、実質的には **JMA** に負担をお願いする形になるかもしれません。**IFMSA president** も招待する必要があるようです。

来年は **WHO Meeting in France**、**CMAAO Philippines**、**Tokyo Meeting**、ラテンアメリカ **Meeting**、地中海 **Meeting** などがあるようです。

11. Conference 3: “ Steps to become a leader - From Junior to Senior Doctor”

Dr. Mukesh HAIKERWAL - Chairman of Council (Australia)

リーダーシップのとり方について本の紹介や如何にあるべきかを話されました。良いリーダーの特徴や如何にリーダーが大切かという話があり、常にリーダーとしてのスキルを磨かなければいけないし、情熱的でなければいけないこと、人脈を広くもち、常に周りをモニターしていかなければいけないと教えられました。そして何よりも楽しむことが大切とのことでした。

12. JDN Elections Term of 2013/2014

結果は下記の通りです。アジアからは韓国とミャンマーから計2名が当選しました。

一人一票 投票権を持つのは計19人。候補者の **Presentation** はなし。**CV** と **Motivation letter** のみを各自読んできて投票。**WMA** 職員の立ち会いはあるものの、部屋の出入りも自由で厳粛な印象はありません。投票用紙が配られてチェックを付けて投票するだけです。候補者

はその場にいない人も多く、**Online** でつながっている人もいたようでした。質問も出来ませんがあまり機能しておらず、財政的なサポートを受けているかなどの質問が出ていました。下記の方達の**CV**や**Motivation letter**は**Dropbox**にありますので参考にして下さい。**1** 回戦では **Education, Communication** にて過半数が得られず、決選投票を行いました。今回初めて一つのポジションに複数人の候補者が擁立されたようですので、役員側も対応に困っていたようです。

新チーム

Nivio (Brazil) as Chair

Caline (U.S.A. /Lebanon) as Deputy Chair

Ahmet (Turkey) as Secretary

Pavan (U.S.A.) as Ethics Officer

Elizabeth (U.S.A.) as SMAC Officer

Alex (Greece, moving to France) and Membership Officer

Wunna (Myanmar) as communications Director

Deborah (Korea) as Publications Director

Ian (Canada) as Education Director

Fabian (Romania) as IMFSA-Alumni Relations

Thorsten (Germany) as Immediate past chair

Jean-Marc (Canada) as Immediate past deputy chair

以上

文責 阿部計大